

青森県海岸津波対策検討会（第4回）の議事概要について

日 時：平成24年10月2日（火）15：00－18：00

場 所：青森国際ホテル 2階「春秋の間」

出席者：佐々木座長、松富委員、南委員、渋谷委員、成田委員、
佐藤アドバイザー

1 検討項目

- ① 下北八戸沿岸津波浸水予測図について
 - ・第3回検討会で決定した断層モデルによる数値計算を行い作成した、津波浸水予測図について事務局から説明があり、検討した。
- ② 地域海岸と対象津波群の設定について [津軽沿岸・陸奥湾沿岸]
 - ・地域海岸の分割と対象津波群の設定について事務局から説明があり、検討した。
- ③ 最大クラスの津波（レベル2津波）の検討について [津軽沿岸]
 - ・想定される地震について事務局から説明があり、検討した。
- ④ 最大クラスの津波（レベル2津波）の検討について [陸奥湾沿岸]
 - ・想定される地震について事務局から説明があり、検討した。

2 検討結果

- ① 下北八戸沿岸津波浸水予測図については、階上町～東通村尻屋崎の区間について了承する。別紙のように各市町村の津波の概要をまとめた。なお、尻屋崎～佐井村については、日本海側のレベル2津波との比較が必要。
- ② 地域海岸と対象津波群の設定について、地域海岸の分割を確認したが、西津軽地域海岸と陸奥湾南西地域海岸については、想定地震の計算結果を見ながら次回検討会で分割することとする。また対象津波群の設定については事務局の提案のとおりでよい。
 - ・地域海岸の分割は2地域海岸を除いて、資料のとおりでよい。
 - ・津軽沿岸の設計津波水位を算定する対象津波については、下記の4津波とする。
 - 1) 天保(山形県沖)地震
 - 2) 新潟地震
 - 3) 北海道南西沖地震
 - 4) H8青森県日本海側想定地震
 - ・陸奥湾沿岸の設計津波水位を算定する対象津波については、下記の2津波とする。
 - 1) H24入内断層想定地震
 - 2) H24青森県太平洋側想定地震
- ③ 津軽沿岸の最大クラス津波を発生させると想定される地震については、事務局が提案した日本海側のモデルを基本的に採用し、すべり量については委員会で出た意見を踏まえて、再検討した上で数値計算を行うこととした。
- ④ 陸奥湾沿岸の最大クラス津波を発生させると想定される地震については、事務局が提案した入内断層モデルを採用することとし、数値計算を行うこととした。なお、海底地すべりにより発生する津波もあり得るので、検討することとした。

3 その他

第5回検討会の開催を12月中旬の予定とする。

別紙

下北八戸沿岸津波浸水予測図について

検討会において、以下の事項を確認した。

1. 津波高について

- 階上町ではおおむね 16m から 20m の津波高となっている。
- 八戸市においては、白浜海岸北端の岬で大きく、また、八戸港八太郎地区においても津波の反射・滞留の影響で大きい津波高となっており、最大の 23m となっている。
- おいらせ町は沿岸域の海底勾配等、海底地形の影響から津波が集中するため最大で 24m となっている。
- 三沢市では、これも海底地形の影響で北側ほど津波高が小さくなる。
- 六ヶ所村は、高瀬川河口から海底の等深線が海岸線に平行となっていることから、津波高は平均的に 6m から 12m 程度となっている。
- 東通村については海岸線の起伏の大きさから、特に尻屋漁港と尻労漁港の間が高くなっている。

2. 各市町村の浸水予測計算結果について

○東通村

東通村において、尻屋、尻労地区及び東北電力東通原子力発電所（敷地標高 13m）は浸水しない結果となっている。老部、白糠地区では一部浸水する区域がある。

○六ヶ所村

鷹架沼等の湖沼を遡上して沼奥部まで影響があるが、その浸水深は 1m 以下となっており、また原子燃料サイクル施設等への影響はまったくない。他の地区では、泊地区、出戸地区やむつ小川原港の一部が浸水する結果となっている。

○三沢市

国道 338 号線から海側の砂森地区をはじめとして、多くの地区で 5m～10m の浸水深となっている。また、一部海岸線近くで 20m 以下の浸水が生じる箇所もあり、三沢漁港において特に顕著に現れている。

○おいらせ町

海底地形の影響を受け津波が集中することにより、国道 338 号線沿いに 20m 以下の浸水深が生じている。

○八戸市

八戸市では馬淵川、新井田川や五戸川等の河川沿いで浸水域が大きくなっており、海岸近くでは 20m 以下の浸水深が発生する。また、八戸港八太郎地区や白浜海岸においては 20m 以上の浸水深が発生する。

○階上町

階上町では河川・沢沿いに浸水域が拡大するとともに、海岸沿いに 20m 程度の浸水深が生じ、一部 JR 八戸線から山側まで浸水する区域がある。

3. 浸水予測結果の色表示について

浸水深と色表示の関係について、20m 以上は紫色、10m 以上は赤紫色、これは3階建あるいは3階部分が水没するという深さを示す。5m 以上は赤色、これは2階建あるいは2階部分が水没する深さを示す。2m 以上は桃色、これは木造家屋がほとんど全壊、1m 以上は橙色、これは人が津波に巻き込まれた場合亡くなるという深さを示す。0.3m 以上は黄色、動くことができなくなるという深さを示す。0.3m 未満は緑色となっている。